

## 男子ホッケー日本代表チーム オーストラリア遠征

日付	2012年3月29日 19:00~		
場所	National Hockey Center	天候	晴れ
試合	第2戦	通算結果	日本1勝1敗

Country	RESULT	Country
日本 JAPAN	Full Time 1 - 3 Half Time 1 - 1	オーストラリア AUSTRALIA

Start	No.	Name	Card
✓	1	小澤 和幸	
✓	2	三澤 孝康	
✓	3	粥川 幸司	
DNP	4	川上 良平	
6	5	塩川 直人	
10	6	三谷 元騎	
DNP	7	長岡 俊輔 (GK)	
DNP	9	古里 竜二	
✓	10	穴井 善博	
6	11	北里 謙治	
✓	12	坪内 一浩	
✓	14	長澤 克好	
30	15	山下 学	
DNP	17	橋 敏郎	
12	18	福代 勇太	
✓	19	川上 啓 (C)	
✓	20	高瀬 克也 (GK)	
✓	22	小野 知則	
✓	23	坂本 博紀	
✓	24	田中 健太	
監督	姜 建旭		
UMPIRE	GENTLES David(AUS)		

Start	No.	Name	Card
✓	1	DWYER Jamie (C)	
✓	3	ORCHARD Simon	
7	4	TURNER Glenn	
4	5	CIRIELLO Chris	
4	6	HAMMOND Rob	
✓	8	BUTTURINI Matthew	
✓	10	FORD Russell	
✓	16	GOHDES Matt	
✓	18	CHARLEDWORTH Jonathon	
✓	20	SWANN Matt	
✓	21	SIMPSON Glenn	
✓	22	BURGERS Nathan(GK)	
✓	23	DANCER Brent	
4	27	GOVERS Kieran	34' G
3	29	BEGBIE Graeme	
✓	31	KAVENAGH Fergus	
監督	CHARLESWORTH Ric		
UMPIRE	VERSTEEGH Stephen(AUS)		

Country	Min	Name	Action	Score
AUS	8	ORCHARD Simon	FG	0-1
JPN	35	川上 啓	FG	1-1
AUS	64	CIRIELLO Chris	PC	1-2

Country	Min	Name	Action	Score
AUS	67	FORD Russell	FG	1-3

オーストラリア遠征第2戦の相手はオーストラリア代表。いわずと知れた世界ランキング1位の現世界チャンピオンである。直前に行われた中国とのテストマッチシリーズでは、3戦合計28得点を上げており、高い基礎技術はもちろん、圧倒的なパワーとスピードを誇る、超攻撃的なチームである。対する日本は組織的なプレスと身体を張った粘り強いディフェンスで対抗する。

試合は序盤からオーストラリアが優勢に進める。2011年度世界最優秀選手のJamie DWYERを中心にドリブル、長短のパスを織り交ぜた、多彩な攻撃で次々と日本ゴールに襲いかかる。すると8分、左からのセンタリングに対し、一瞬、サークル内のマーズがズレてしまい、タッチシュートを決められてしまう。しかし、この失点で気落ちする事無く、日本は持ち前の運動量と早いカウンターで突破口を見いだす。すると徐々に日本のボール支配率が高まり、中盤以降は一進一退の攻防が続く。すると前半終了間際の34分、#24田中が得意のドリブルでサークル内に切り込むと、シュート性のボールを打ち込む。これに#19川上がタイミング良く飛び込み、見事なタッチシュートを決める。前半は1-1の同点で折り返す。ホームのファンの前で負けられないオーストラリアは、後半開始早々から更に攻撃のギアをアップする。たまたまPCを与えてしまう日本であったが、ここは#20高瀬のファインセーブでゴールを死守する。しかし64分、この日6本目のPCのピンチで、ブロックにいったファーストランナーのスティックに当たったボールは角度が変わってゴールに吸い込まれてしまう。不運な形で勝ち越しゴールを与えてしまった日本だが、その後も集中力を切らす事無く、同点ゴールを目指す。しかし67分、高い位置からのプレスを脱却されてしまい、最後は右からの押し返しをゴール左上に決められ、ダメ押しゴールを許してしまう。試合はこのまま1-3で終了。敗れはしたものの、世界チャンピオンを相手に、課題として取り組んできたプレスディフェンスが十分通用する事を実感し、今後につながる非常に良い内容の試合であった。

日本	3	シュート数	13	オーストラリア
	1	PC数	6	